

「開墾記念碑」

福井県大野市・塚原開拓地

福井県東部の内陸部に位置し、石川県と岐阜県に接する大野市は日本有数の豪雪地帯で、人口は約3万1千人。総面積は8万7243[㍉]で、同県内の市町村の中では最も広く、その約85%を森林が占めている。戦前、同市富田地区（旧・大野郡富田村）の塚原区は広い原野だったが、戦後開拓事業で水田化された。

1945（昭和20）年11月、戦災者、引揚者、疎開者ら57戸、267名が塚原開拓地に入植した。入植地は標高200[㍉]で、土質は火山灰地で強酸性土壌だった。一戸当たりの面積は1町7反。入植者はその未墾地に、慣れぬ手で開拓の鋤を入れた。雑木林を切り開きながらの開墾は重労働だった。

開墾だけでは生活できないため、出稼ぎをする者が続出した。塚原開拓農協が県に陳情した結果、地区内の幹線道路や開拓水路の建設事業は、49年度から同開拓農協が請け負うこととなり、工事は開拓者が行った。

寒暖差が大きい内陸的な気候で、稲作には条件が良かったため、水田づくりにとりかかった。51年度以後の開拓水路は地区外にわたり、用水の問題は解決に向かった。しかし、開畑は手と鋤で行ったが、水田化は斜面を平面にする必要があり、容易なことではなかった。

開拓者と地元の増反者で「富田塚原土地改良区」を結成し、70余町歩の水田造成に着手。ブルドーザーなどの機械による造成を行い、55年度、7町余歩の開田に成功した。翌年度以降も順次、水田化が進められた。

現在、田畑が広がる農村地帯となっている。心安らぐ風景のなか、「富塚生活改善センター」の脇には開拓記念碑が建っている。碑銘は「開墾記念碑」。裏面の工程記録には、塚原第二開拓農協が60年12月に建立したことが記されている。

塚原開拓地 「開墾記念碑」

- ①調査日 2018年9月19日
- ②所在地 大野市富田
- ③地区の沿革 昭和20年11月、戦災者、引揚者、疎開者ら57戸、267名が塚原開拓地に入植した。入植地は標高200米で、土質は火山灰地で強酸性土壌だった。一戸当たりの面積は1町7反。
- ④設置年月日 昭和35年12月
- ⑤設置者 塚原第二開拓組合
- ⑥碑名 開拓碑
- ⑦碑文（表面） 開墾記念碑 通商産業大臣福田一書
- ⑧碑文（裏面） 工程記録
 - 起工 昭和三十四年六月
 - 竣工 全 三十五年十二月
 - 完成反別 五十町歩
 - 施工主 塚原第二開拓組合
 - 施工者 大野市 山内五作
- ⑨現在の状況 富塚生活改善センターで管理されている。

